

第2節 吉田構内(吉田遺跡)の調査

1. 文化系サークル棟新営その他工事に伴う予備発掘調査

調査地区 吉田構内F-14区

調査面積 24m²

調査期間 令和3年8月19日～9月8日

調査担当 横山成己 水久保祥子

調査結果

(1) 調査の経緯(図4、写真28・29)

当開発計画に対しては、令和2年度第3回埋蔵文化財資料館専門委員会(令和3年3月31日(水)開催)にて学生支援部より工事内容の説明を受け、埋蔵文化財保護対応が諮られた。その結果、既設の文化サークル棟A(写真28)が埋蔵文化財の調査なしに建設されたこと、新規建物の建設前には少なくとも部分的に地下の様相を把握する必要があることなどから、予備発掘調査を実施することが承認された。予備発掘調査の位置については、令和元年度に実施した「Uni E'terna 山口大学学生会館」新営に伴う予備発掘調査^{註1}にて確認された河川跡の延長部を確認することを目的とし、施設環境部との調整のうえ、新規建物の最北部に幅3m×長さ14mのトレンチを設けることとなり(図4)、実働10日間で調査を実施する運びとなった。

既設建物の解体終了後(写真29)、調査の準備工(仮ベンチマークの設置)を本学夏期一斉休業後の8月18日(水)に行い、翌19日(木)から予備発掘調査を開始した。なお、調査における重機掘削や、写真撮影用の高所作業車の手配などは建物本体開発工事業者に協力を依頼した。

【註】

1) 横山成己(2023)「学生会館(仮称)新営工事に伴う予備発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—令和元年度—』, 山口

(2) 調査の経過

重機掘削は、8月19日(木)の1日で終了した。なお、安全確保のため現地表下1m地点で調査区3

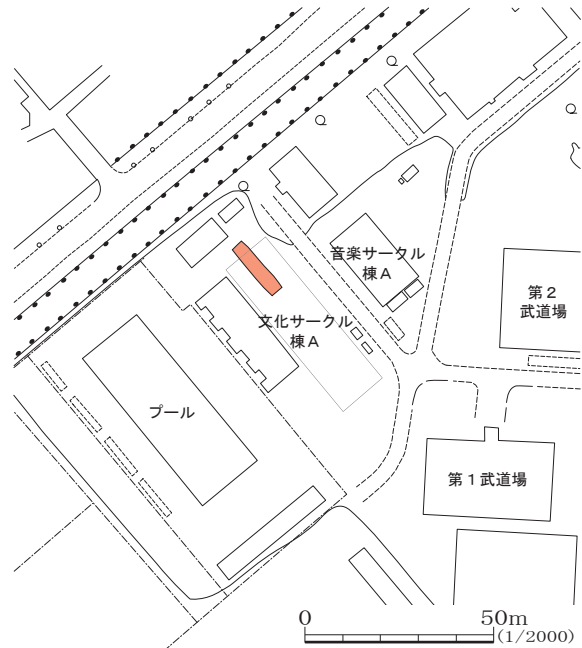


図4 調査区位置図



写真 28 調査前遠景(北西上空から)



写真 29 既設文化サークル棟A解体(西から)

方に幅1mの平坦面を設け、下位部分の掘削を行っている。

以降は好天に恵まれず、8月20日(金)は雨天中止、8月23日(月)に現場復旧作業を行ったが24日(火)から26日(木)まで雨天中止となり、本学吉田地区移転前の景観である旧耕土上面を検出できたのは27日(金)であった(写真30)。

雨天による日程の遅延により、28日(土)も作業を行うこととなり、30日(月)までに調査区側溝の設置、攪乱坑、旧耕土、旧床土の掘削を終えた。31日(火)に遺構の検出作業を実施し、河川跡と杭跡群を確認し、検出状況の写真撮影を行った(写真31)。9月1日(水)に河川跡の掘削を開始したが、2日(木)、3日(金)が雨天中止となり、4日(月)に現場復旧作業とともに河川跡を完掘し、清掃後完掘写真を撮影した(写真32・33)。翌5日(火)から6日(水)にかけて各種測量等の記録作業を行い、調査を終了した。

(3) 基本層序(図5、写真35)

調査地の現地表面は、解体工事のため荒れてはいるが、標高はおおよそ18mを測る。調査においては、吉田キャンパス造成時の盛土を重機で掘削し、旧耕土層(図5基本層序1: 褐灰色(10YR4/1)シルト(0.5~2cmφの礫が少量混ざる))以下を人力で掘削した。

旧耕土検出面では、調査区のやや南西寄りで低く、棚田状に段差が設けられていることを確認した。また、低所側で調査区に直行する方向(北東―南西方向)の溝7条を確認した(写真30)。耕作に伴う鋤溝とみられる。旧耕土除去後、旧床土層(図5の基本層序2: にぶい黄橙色(10YR7/2)と灰白色(10YR8/2)が混ざるシルト(0.5~1cmの礫が極少量混ざる)と基本層序3: 浅黄色(2.5Y7/3)に明黄褐色(2.5Y7/6)が少量混ざるシルト)で北東―南西方向の水田暗渠を確認した。床土層直下が地山であるが、複数の堆積層から構成される(図5の基本層序4: 浅黄色(2.5Y7/3)に明黄褐色(2.5Y7/6)が少量混ざるシルトと基本層序5: 灰褐色(7.5YR4/2)~にぶい褐色(7.5YR5/3)シルトと基本層序6: 黒褐色(7.5YR2/2)シルト)。

(4) 遺構(図5、写真31~34)

地山上面が遺構面となっており、調査区南西部に南北方向の河川跡を、北西部に杭跡群を検出した。標高は低所で約16.4m、高所で約16.6mを測る。

河川跡

河川幅は不明であるが、深さは現況で約0.4mを測る。方向も不明であるが、河底は南から北に傾斜している(写真34)。令和元年度調査で確認されたものと同一河川であれば、後者の河底はさらに約0.2m低いことから、北流した後、東に湾曲すると推定される。埋土は、中層以下が締まりのない砂礫層で水流堆積を示しており、上層は旧床土と混じり合い粘性を帯びている(写真34)。このことから、河川機能時の元来の地盤はもう少し高く、農耕地とする際に削平されたものと推定できる。遺物の包含は極めて希薄で、弥生土器または土師器とみられる小破片2点が出土しているに過ぎない。

杭跡群

調査区の北東部に限定して、7本(内1本は北東壁断面で確認)からなる杭跡群を確認した。調査区が狭小であることから、方向や機能に関しては不明確であるが、断面精査により地山を上面に打ち込まれていることが判明していることから、河川機能時以降から近現代の耕地化以前に設けられたものであることが分かる。

暗渠

調査区のほぼ中央で、北東―南西方向に検出した。完掘していないが、旧床土上面から掘り込まれ

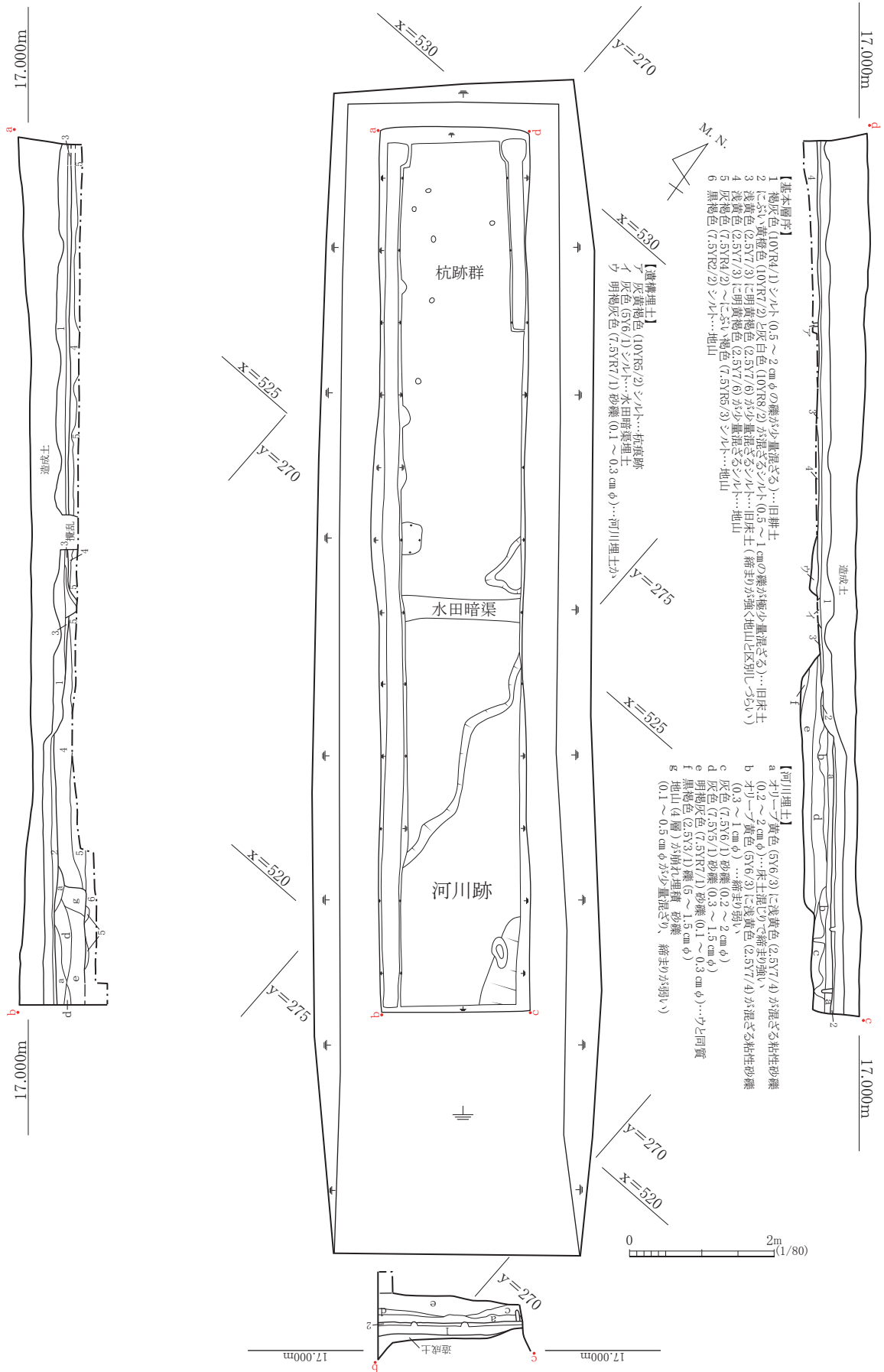


図5 調査区平面図・断面図

ており、キャンパス移転前の耕地に伴うものである。令和元年度調査で確認したものと同様、粗朶暗渠であろう。

(5) 小結(図6)

吉田構内北西端部、正門の南西に所在する諸施設(特殊排水処理施設(昭和51(1976)年竣工)、排水管理棟(昭和53(1978)年竣工)、生活排水処理施設(昭和53(1978)年竣工)、弓道場(昭和46(1971)年)竣工、音楽サークル棟A(昭和47(1972)年竣工)、文化サークル棟A(昭和42(1967)年竣工)など)は、いずれも正式な埋蔵文化財調査を経ずに建設されており、わずかに平成22年度に計画された音楽サークル棟Bの新営時に予備発掘調査が実施され、遺物包含層の可能性のある堆積層と、河川または落ち込みを確認しているに過ぎない。^{註1}より広域に目を向けると、サークル棟敷地の南東に設けられた第1体育館(昭和41(1966)年竣工)、第1武道場(昭和44(1969)年竣工)、第2武道場(昭和48(1973)年竣工)なども埋蔵文化財調査が実施された記録がない。大学移転開始直後に結成された山口大学遺跡調査団による構内埋蔵文化財分布調査が原因となり、調査対象から省かれたものと推定される。^{註2}

当地において本格的に調査の鉞が加えられるのは、平成6(1994)年に実施された第2体育館新営に伴う発掘調査^{註3}まで待つことになる。同調査で弥生時代の大溝3条や時期不明の土壌などの遺構が密に検出され、その東方約45mの地で翌平成7(1995)年に実施された公共下水布設に伴う発掘調査^{註4}では、陸上競技場に設けられたトレンチから弥生～古墳時代の河川跡や溝、土坑などが複数確認された。両調査区の間で平成25(2013)年に実施された体育サークル棟C建て替え工事に伴う発掘調査^{註5}では、河川跡1条と溝4条などが検出され、平成6年度調査区の南流する大溝1が、人工的に維持され南西に流れる自然河川(NR1)と同一のものであることが判明し、さらに河川は西北西に走り平成7年度調査区NR-1101に向かうと推測されるに至っている。出土遺物から、この河川は弥生時代前期以降、弥生時代を通して存続し、古墳時代前期に埋没すると推定される。河川から分岐する溝や周辺で検出される溝は、この河川から取水する灌漑用水路である可能性が高く、未だその痕跡を確認できていないが、河川周囲には水田が設けられていたと考えられる。

今回確認された河川跡は、NR-1101からおよそ70m乖離しているものの、その下流と推測される令和元年度検出の河底から弥生時代前期の土器が出土していることなどから考えて、NR-1101の下流または支流とみることも可能である。吉田遺跡における先史時代の土地活用を考察する上で極めて重要な調査成果と言える。吉田構内北西部の地下の様相は未だ不明確であり、地下の掘削を伴う工事計画には引き続き慎重に対応する必要がある。

【註】

- 1) 田畑直彦(2014)「音楽サークル棟新営工事に伴う予備発掘調査・立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成22年度』, 山口
- 2) ボーリングステッキによる堆積層調査が主体だったようである。
- 3) 村田裕一・中村仁美(2000)「吉田構内第2屋内運動場新営に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XIV』, 山口
- 4) 田畑直彦(2023)「吉田構内公共下水布設に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XV』, 山口
- 5) 横山成己(2018)「第1武道場耐震改修その他工事に伴う本発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成25年度』, 山口

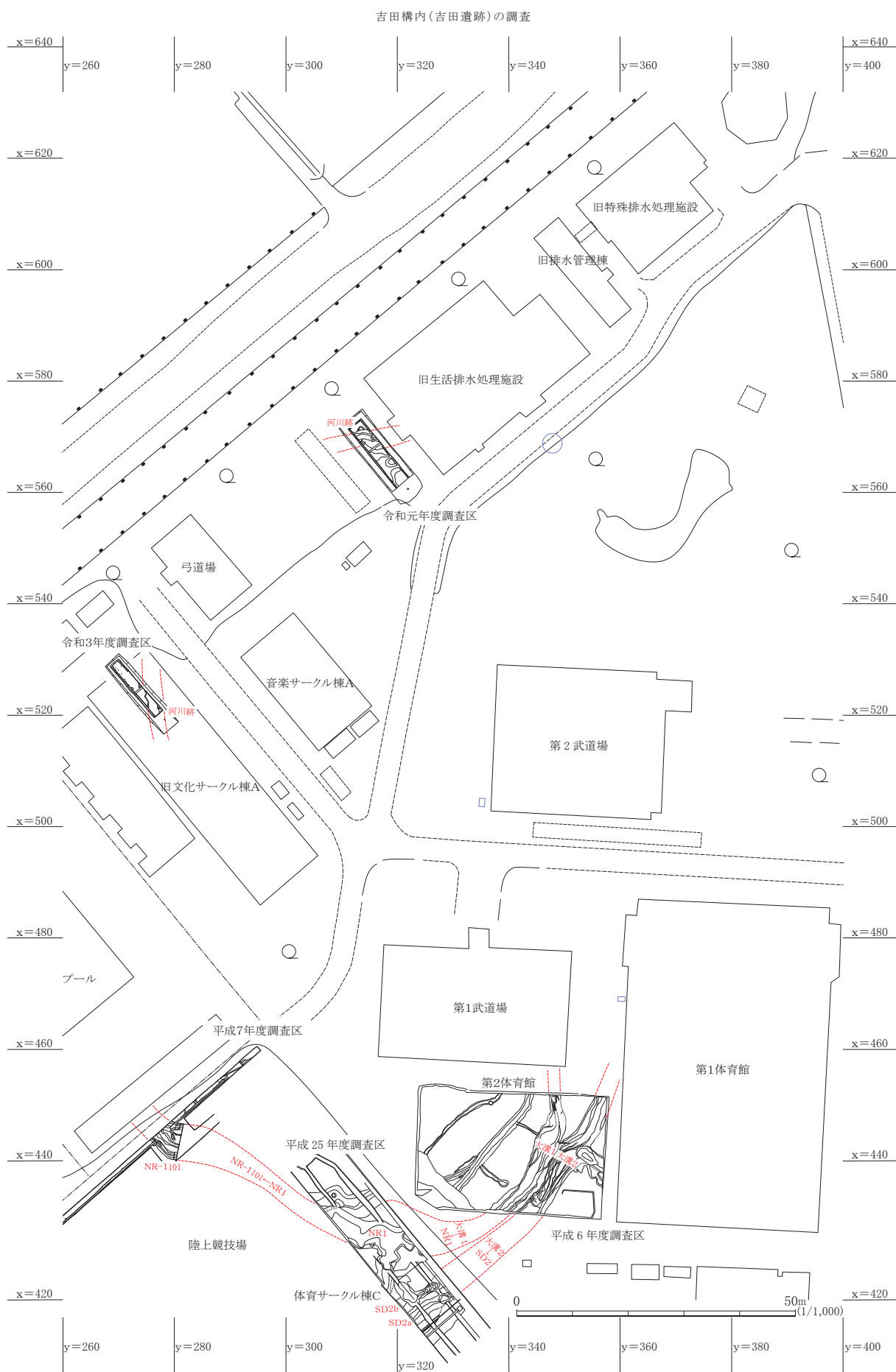




写真 30 旧耕土上面検出作業 (北から)



写真 31 遺構検出状況 (南東から)



写真 32 完掘状況 (北から)



写真 33 完掘状況 (南東から)



写真 34 河川堆積土層断面 (西から)



写真 35 調査区土層断面 (南東から)

2. 文化系サークル棟新営その他工事（設備関連工事）に伴う立会調査

調査地区 吉田構内F-15、G-15・16区

調査面積 45.6㎡

調査期間 令和3年9月10日

調査担当 横山成己

調査結果

文化サークル棟Aの建て替え工事に伴い、新設建物までの電気線埋設工事が実施されることとなった。埋設ルートは第2体育館から新設棟までの総延長74mで、掘削深度は現地表下60cmとのことであった（図7）。

平成6（1994）年に実施された第2体育館新営に伴う発掘調査では、本学吉田地区移転前の耕作土上に40～140cmの造成土が存在すると報告されていることから、立会調査を行うことにした。

調査の結果、ルート全域において掘削は造成土内に止まっていることが明らかとなったが。ここでは、第2体育館際での層序を報告しておく。

現地表下10cmが表土、下位60cmが造成土である（図8、写真36）。

【註】

- 1) 村田裕一・中村仁美（2000）「吉田構内第2屋内運動場新営に伴う発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報XIV』，山口

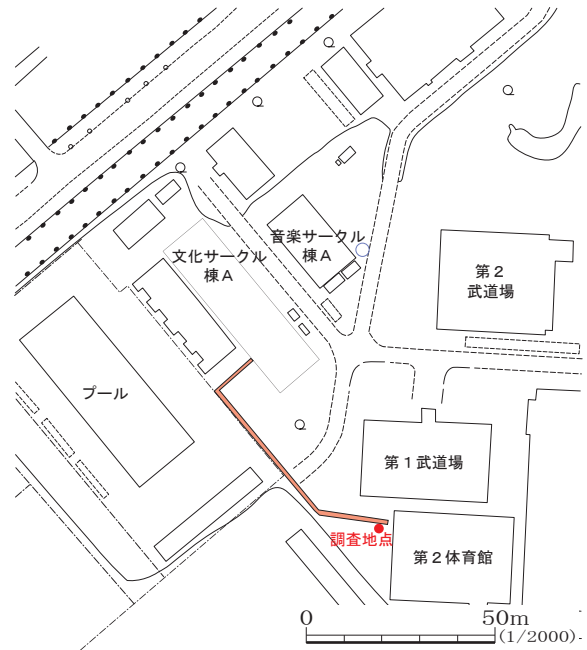


図7 調査区位置図



写真 36 調査地点土層断面（北西から）

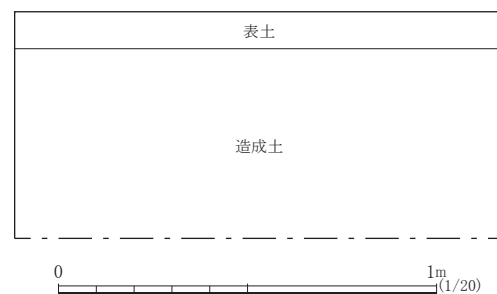


図8 土層断面柱状図

3. 農学部授業(生物資源環境科学基礎実験)に伴う立会調査



図9 調査区位置図

調査地区 吉田構内S-18・19区

調査面積 2m²

調査期間 令和3年9月1日

調査担当 水久保祥子

調査結果

農学部の授業「生物資源環境科学基礎実験」において、果樹園の4箇所で人力掘削を行い土壌観察が行われた。附属農場敷地内の地下の様相についての情報取得のために、担当教員の協力を得て、掘削後の土層断面の状況を調査することとなった。

調査区はモモ園北半分に4箇所設けられた。1・2・4区は掘削されていた現地表下60～80cmまで全て表土および造成土であった。3区のみ現地表下25cmで橙色粘土質シルトの地山層を確認した(図10、写真41)。令和2年度に調査したモモ園の北側にあるブドウ園では、3区と同様、現地表下20～30cm^{註1}で地山面を検出しており、農作業等による掘削を受けていなければ果樹園では比較的浅い深度で地山が露出することが改めて確認された。

【註】

- 1) 横山成己(2024)「農学部附属農場果樹園土壌改良作業に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-令和2年度-』, 山口
横山成己(2024)「農学部附属農場ぶどう園植樹作業に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-令和2年度-』, 山口



写真37 調査地遠景(西から)



写真38 調査地近景(北東から)



写真39 1区東壁断面(西から)



写真40 2区東壁断面(西から)



写真41 3区東壁断面(西から)



写真42 4区東壁断面(西から)

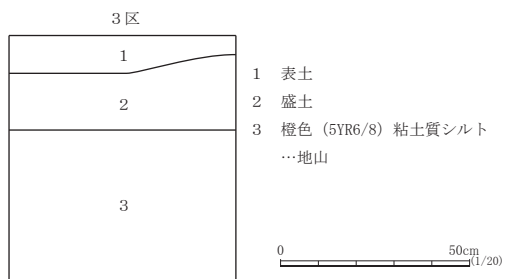


図10 3区土層断面柱状図

4. 実験動物施設改修工事に伴う立会調査



図 11 調査区位置図

調査地区 吉田構内0-19、P-18・19区

調査面積 65m²

調査期間 令和3年9月16～21日、10月1・14日、
12月2～8・15・22日、令和4年1月7日

調査担当 横山成己 田畑直彦

調査結果

令和2年度末、大学研究推進機構より実験動物施設の建物改修に伴い、建屋周囲の配管等を更新する事業計画が提出された。令和2年度第5回埋蔵文化財資料館専門委員会（令和3年3月31日（水）開催）にて埋蔵文化財保護対応が審議され、立会調査を実施することが承認された。

実験動物施設（旧：農学部動物舎）は、新営に伴い当館と人文学部考古学研究室により、昭和54（1979）年7月に試掘調査^{註1}が実施されている（図11中央やや下の青線枠）。A・B2本の東西トレンチによるものであったが、北に配されたAトレンチでは、60cm～110cmの造成土下に、東西両端部で層厚10～20cmの砂礫層、その下位に黄橙色粘質土の地山を確認しており、調査担当者は、砂礫層を南から北に落ち込む谷状地形の堆積物と推察し、調査を終了している。

設備関連（配管）の掘削工事は、既設建物全周を対象に実施された（図11赤塗枠）が、埋蔵文化財に支障が生じたのは建物西側および北側西端部においてである。管路部分の掘削は旧耕土及び旧床土より上位に収まったが、深掘りを行ったマス設置部（C～E地点）において、攪乱埋土・造成土下に河川埋土とみられる堆積層を確認した（図12）。昭和54年実施の試掘調査との比較においては、層厚10～20cmとされる砂礫層が灰褐色（7.5YR6/2）に橙色（7.5YR7/6）が混ざる礫（1～4cmφ）層に対応するとみられ、さらに礫層の上位に10～45cmの灰褐色（7.5YR6/2）または褐灰色（10YR5/1）シルト層を確認した（写真43・44）。また、試掘では砂礫層下位の黄橙色粘質土は地山と判断されたが、当調査における砂礫下位のシルト層は河川堆積土である可能



写真 43 C地点土層断面（東から）



写真 44 D地点土層断面（東から）

性が高いと推定している。

A・B地点は掘削が浅く、旧床土下位に確認された暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト層の性格を断定できなかったが、これも地山ではなく河川埋土上部の堆積層である可能性を排除できない。

C～E地点で確認された暗灰色または褐灰色シルト層には、遺物を含んでいる可能性も考えられたが、断面観察では遺物が認められず、工事排出土はすでに工事地外に搬送されていたため、確認することができなかった。

また、建屋の南一東ルートでは掘削が造成土内に止まるか、造成土下が浅黄色(7.5YR7/8)礫(0.2～2cm)混じりシルト、または浅黄色(7.5YR7/8)に灰白色(5Y8/1)シルトであった。昭和54年調査により地山認定されたものと同一層であろう。遺構は検出されていない。

以上の調査結果と昭和54年調査成果を合わせ推測すると、A～E地点よりわずかに東側に河川跡の東肩部が存在するのであろう。

周辺地では、当調査地の北方約70m地点で、獣医学研究科棟新営に伴う発掘調査と、東に隣接する獣医学国際教育研究センター棟新営に伴う発掘調査^{註3}(図11上方青線枠)において、北東から南西方向に走る縄文時代の河川跡が検出されている。この河川が蛇行しつつ当調査地まで南流するとも思われるが、間に位置する農学部共同獣医学部本館と理学部3号館が、埋蔵文化財調査を実施せず建設されていることから、可能性を指摘するに止めざるを得ない。将来的な地下情報の増加に期待したい。

【註】

- 1) 河村吉行(1992)「吉田構内農学部動物舎新営に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋構内遺跡調査研究年報Ⅹ』, 山口
- 2) 豆谷和之(1994)「吉田構内農学部連合獣医学科棟新営に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋構内遺跡調査研究年報ⅩⅡ』, 山口
- 3) 横山成己(2018)「獣医学国際教育研究センター棟新営に伴う本発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成25年度—』, 山口

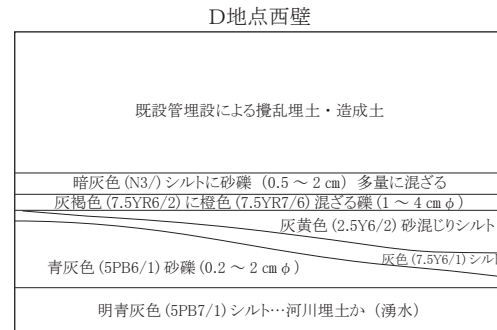
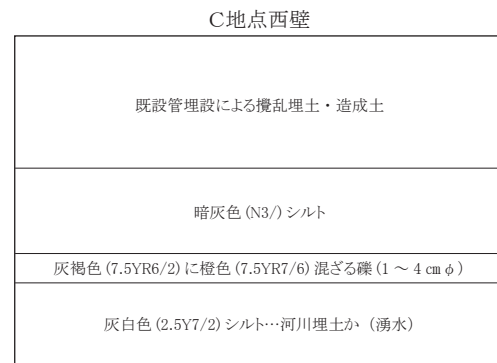
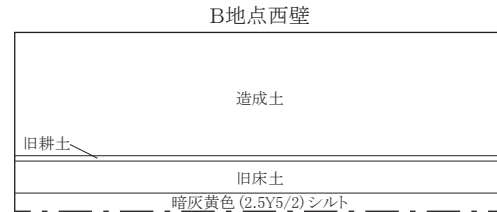
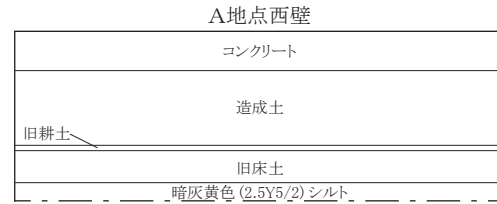


図12 土層断面柱状図

5. 農学部附属農場果樹園土壌改良作業に伴う立会調査

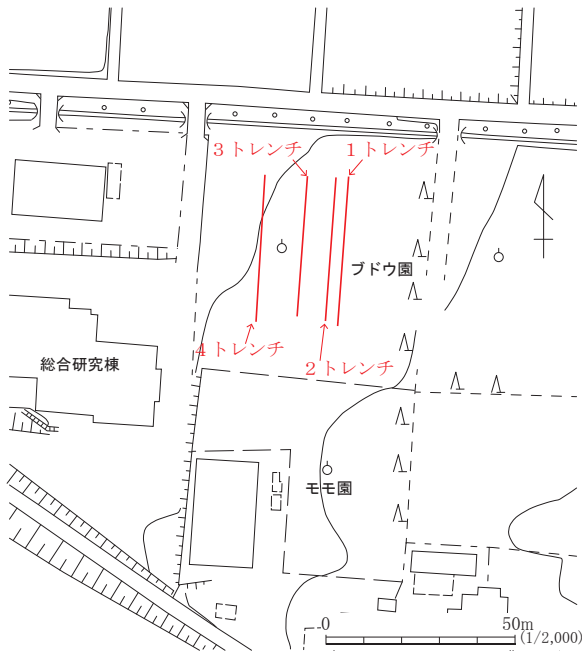


図13 調査区位置図



写真45 3トレンチ全景(北から)

調査地区 吉田構内R-17・18、S-17・18区

調査面積 62.4㎡

調査期間 令和3年9月21・24・27・28日

調査担当 横山成己 水久保祥子

調査結果

農学部附属農場ブドウ園の土壌改良作業に伴って立会調査を行った。令和2年度にもブドウ園内で土壌改良および植樹作業が行われ、それに伴って立会調査を実施しており、溝状遺構等の複数の遺構を確認している。^{註1}

今回の土壌改良の掘削作業は、ブドウ園の4箇所幅約0.4m、長さ約38～40m、深さ約0.4mで行われた。

1～4トレンチで表土および果樹園耕土(層厚15～45cm)の直下で地山が検出されたが、果樹園の造成・耕作により大きく削平を受けているようで、各調査区の半分程度が掘削深度以上の深さで攪乱を受けていた。3トレンチの北端部でのみ、表土・果樹園耕土の下に旧耕土1・旧床土・旧耕土2が認められた(図16・写真51)。

遺構は全トレンチで東西方向の溝条遺構を数条検出した。その他は、1トレンチでピット1基、3トレンチで土坑1基、4トレンチでは断面観察のみとなるが土坑状の落ち込みを検出し(写真53)、前回の調査に続けて、果樹園において広域に遺構が分布することを確認した。

【註】

1) 横山成己(2024)「農学部附属農場果樹園土壌改良作業に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—令和2年度—』, 山口

横山成己(2024)「農学部附属農場ぶどう園植樹作業に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—令和2年度—』, 山口

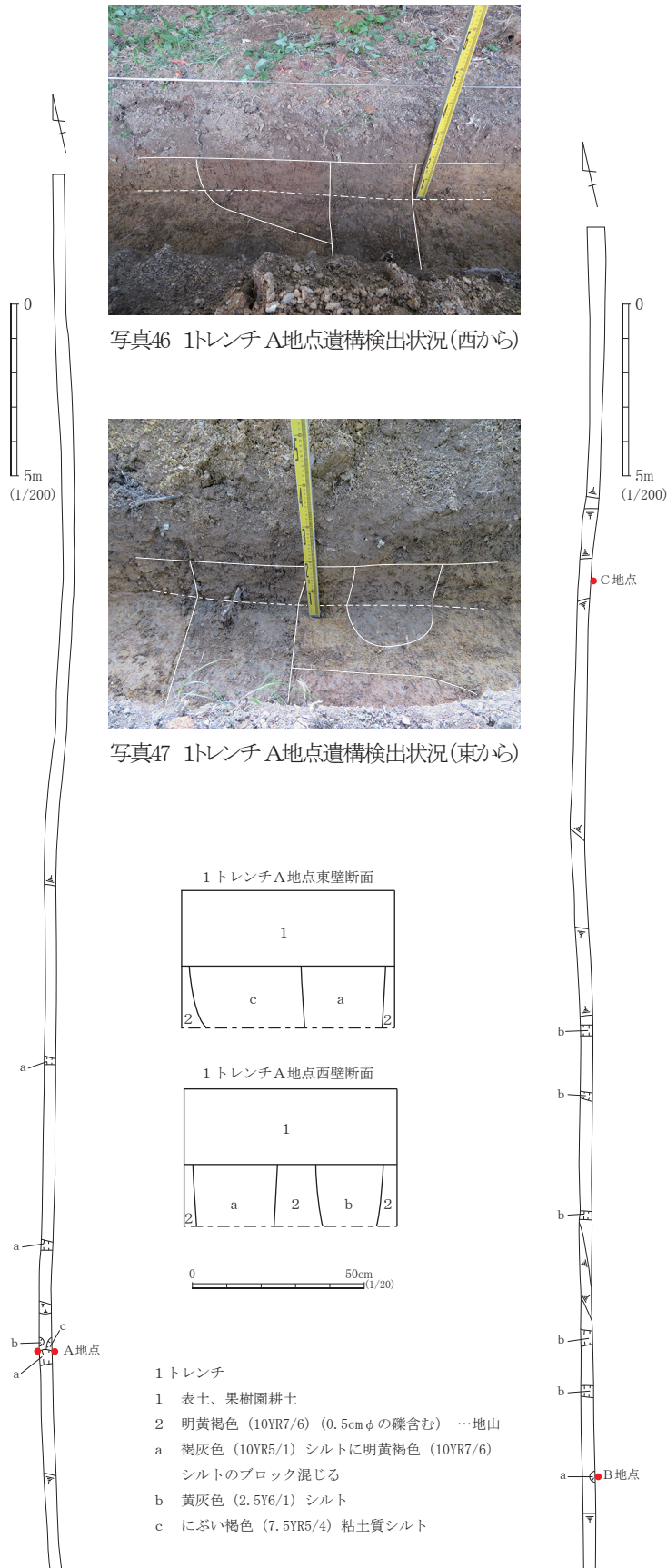


図14 1トレンチ平面図 A地点土層断面柱状図

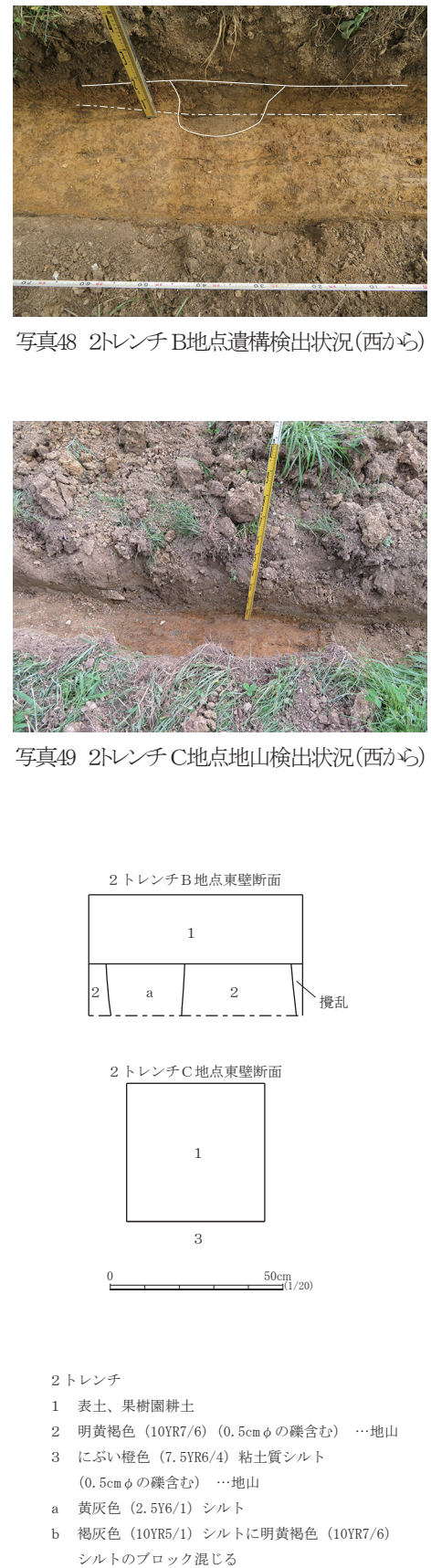


図15 2トレンチ平面図 B・C地点土層断面柱状図

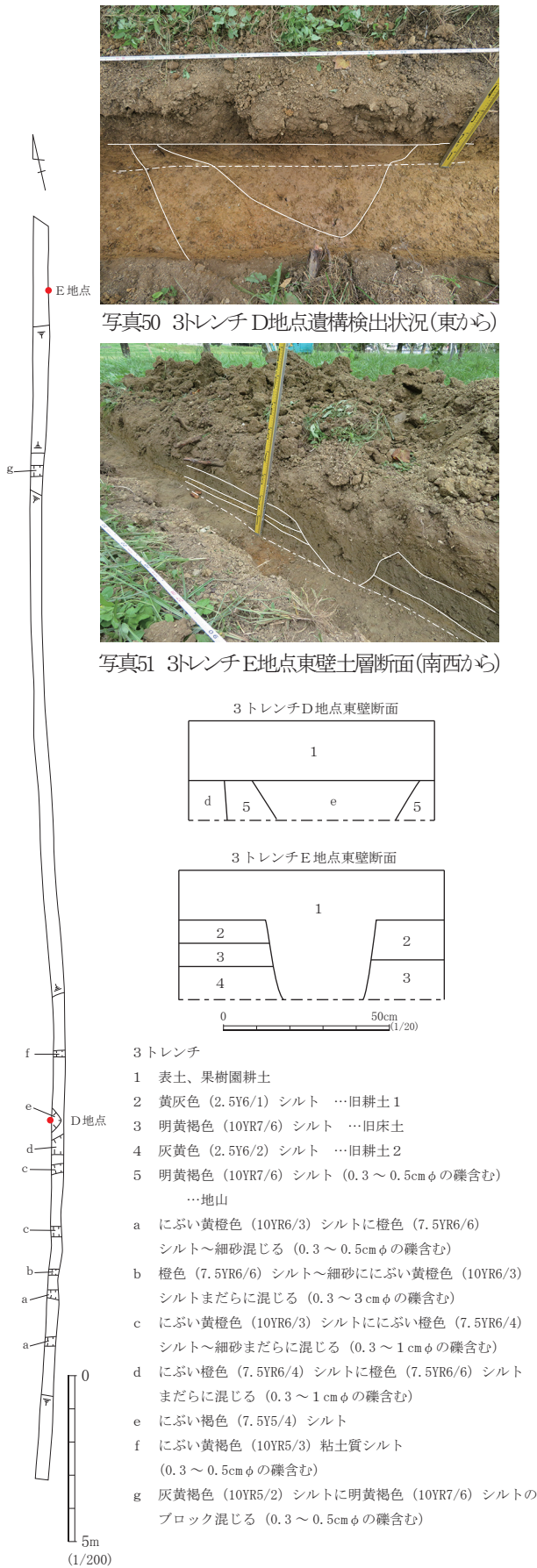


図16 3トレンチ平面図 D・E地点土層断面柱状図

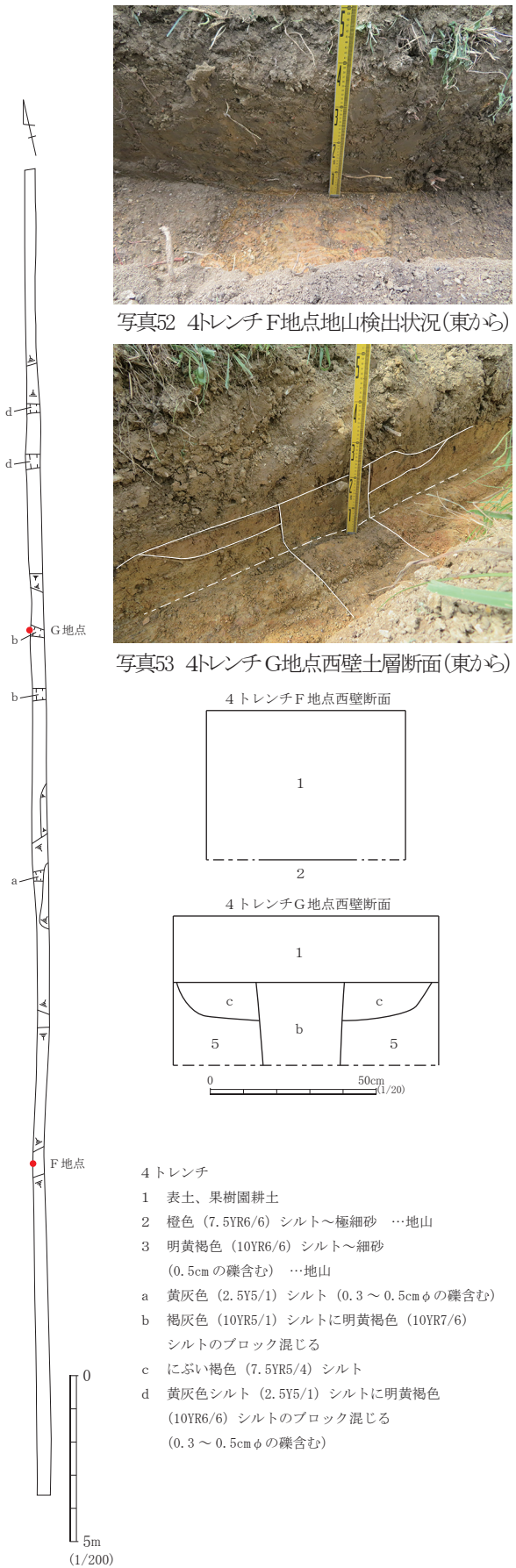


図17 4トレンチ平面図 F・G地点土層断面柱状図

6. 農学部授業(生物資源環境科学基礎実験)に伴う立会調査

調査地区 吉田構内R-16、T-17区

調査面積 1m²

調査期間 令和3年10月25日

調査担当 横山成己

調査結果

附属農場果樹園の北東側に設けられたA地点では、深さ60cmの掘削が行われた。表土(層厚5cm)下には45cmの造成土が存在しており、その下位に本学統合移転前の旧耕土が確認された。掘削底面には黄灰色シルト層が存在しており、これは旧床土とみられるが遺物包含層の可能性も残す。

B地点は実験水田4号田の中央西側に設けられ、深さ60cmの掘削が行われた。層序は耕土(層厚20cm)、造成土1(層厚10cm:灰黄色礫混じりシルト)、造成土2(層厚10cm:黄灰色礫混じりシルト)、黄灰色シルト(層厚5cm)、淡黄色～黄色シルト(層厚15cm以上)で、黄灰色シルトは遺物包含層の可能性があり、淡黄色～黄色シルトは地山である。

実験水田が立地する旧地形は、平八谷や大浴谷、道祖ヶ峠から延びる谷筋と尾根が複雑に入り組んでいたと推察されることから、近距離間でも地下の層序は大きく異なる可能性がある。授業による小規模な掘削であるが、今後も情報収集に努めたい。

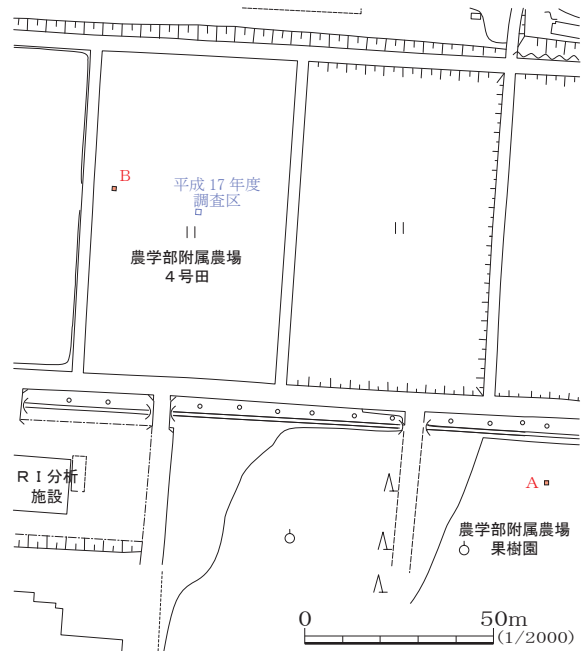


図18 調査区位置図



写真54 A地点土層断面(東から)

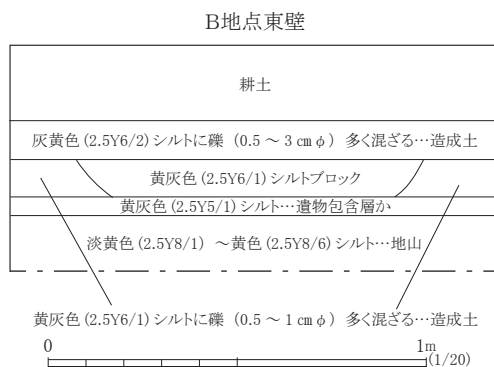
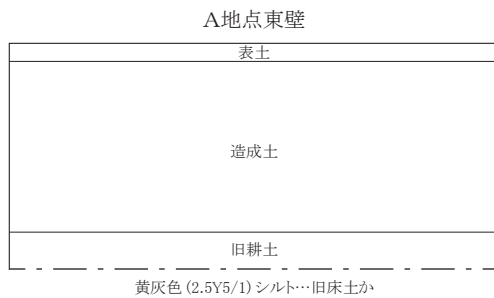


図19 土層断面柱状図



写真55 B点土層断面(東から)

7. 農学部附属農場果樹園果樹植替作業に伴う立会調査



図20 調査区位置図

調査地区 吉田構内S-19区

調査面積 12m²

調査期間 令和3年11月4・5・8・9・12・15・16日

調査担当 横山成己 水久保祥子

調査結果

農学部附属農場モモ園において果樹の植替作業を行うことを受けて、担当職員の協力のもと、調査を行った。調査は、植替作業にかかる平面形約1m四方、深さ40～50cmの範囲を対象とし、A～L区までの12箇所設けられた。

A区・B区で地山面が検出された以外は全て掘削深度まで盛土で、果樹園造成に際して大きく盛土が施されている様子が確認された(写真62～71)。

A区は、表土・果樹園耕土(層厚16～24cm)、旧床土(層厚6～9cm)、包含層(層厚9～17cm)の下に地山が検出され、ピット1基と杭跡とみられる小ピットを5基確認した(図21、写真58～60)。B区は表土・果樹園耕土の下に盛土(層厚6～10cm)があり、旧耕土(層厚13～20cm)の下に地山となっている(図22、写真61)。B区では遺構は検出されなかった。遺物については、いずれも小片であるが、A区の第3層から須恵器片や土師器片、B区の盛土で須恵器甕の体部片などが出土している。

調査地にほど近い動物医療センターから総合研究棟にかけての一带では、8世紀から9世紀の土器や木製品等が多く廃棄された埋没谷が検出されており、調査地の西側にあたる農学部解剖実習棟建設の際に行われた調査では、埋没谷の右岸で古代官衙に関連すると思われる遺構が確認されている^{註1}。附属農場果樹園一帯にもこれらに係る遺構が存在する可能性が大いにあり、今後も注視していく必要がある。

【註】

- 1) 田畑直彦(2004)「平成7・10～14年度山口大学構内遺跡調査の概要」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』, 山口



写真56 調査地近景(西から)



写真57 調査地近景(南東から)

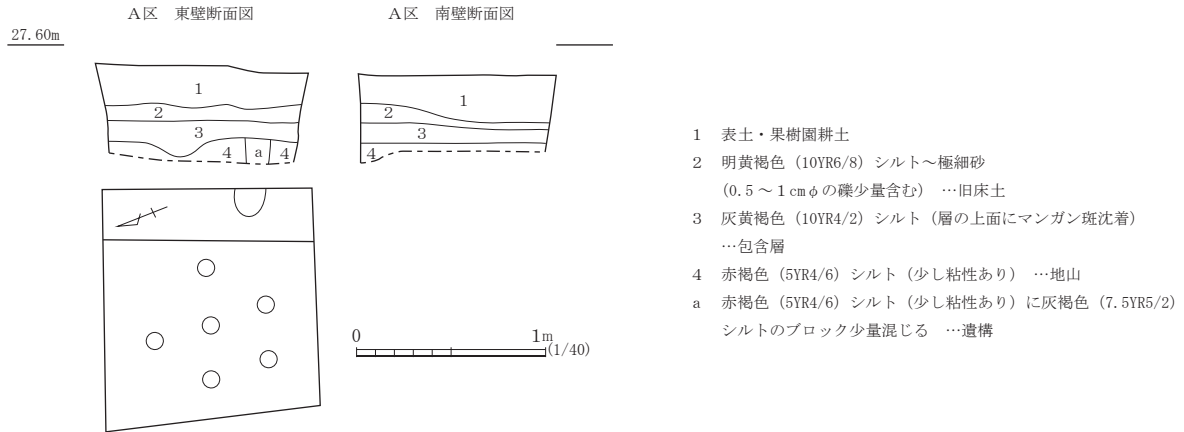


図21 A区遺構平面図・土層断面図

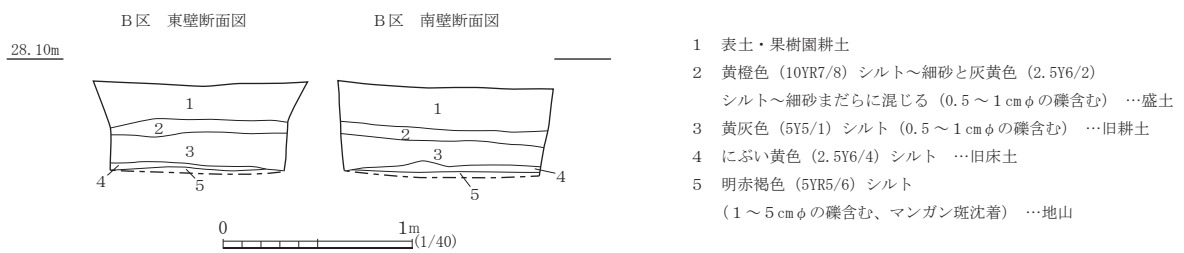


図22 B区土層断面図



写真58 A区遺構検出状況(西から)



写真59 A区東壁断面(西から)



写真60 A区南壁断面(北から)



写真61 B区東壁断面(西から)



写真62 C区東壁断面(西から)



写真63 D区東壁断面(西から)



写真64 E区東壁断面(西から)



写真65 F区東壁断面(西から)



写真66 G区東壁断面(西から)



写真67 H区東壁断面(西から)



写真68 I区東壁断面(西から)



写真69 J区東壁断面(西から)



写真70 K区東壁断面(西から)



写真71 L区東壁断面(西から)

8. 経済学部屋外雨水管敷設替工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内K-19・20区

調査面積 8㎡

調査期間 令和4年2月10日

調査担当 横山成己

調査結果

令和3年度後期に至り、経済学部より屋外雨水管敷設替工事計画が寄せられた。周辺樹木根により既設管が目詰まりを起こしているため、一部新規に管を埋設する計画であった(図23)。計画予定地は弥生時代から古墳時代にかけての集落が確認され、埋め戻し保存されている遺跡保存公園に近接しており、最大掘削深度も110cmと深いことから、埋蔵文化財保護対応として立会調査を実施することが第2回埋蔵文化財資料館専門委員会(11月22日(月)～メール審議)にて諮られ、承認された。

新規掘削部A-Bに対し、重機掘削終了後に立会調査を行った。掘削幅は60cm、深さは120～130cmであった(写真72)。掘削範囲の北東側1/3は大きく攪乱を受けており、自然堆積層等は遺存しない状況であったが、南西2/3は良好に残されていた(図24)。

基本層序は①本学統合移転時の盛土およびアスファルト、碎石(層厚約70cm)、②浅黄色(2.5Y7/3)に明黄褐色(10YR7/6)が混ざるシルト(層厚約20cm)、③灰黄褐色(10YR6/2)シルト(層厚15cm)、④灰白色(5Y7/1)シルト(層厚15cm以上)である。極めて部分的であるが、②の上に旧床土とみられる層が遺存することが確認された。



図 23 調査区位置図



写真 72 調査区全景(南西から)



写真 73 調査区南東壁(土坑)土層断面(北から)



写真 74 調査区南東壁(ピット)土層断面(北から)

調査の結果、複数の遺構が確認されたが、遺構は④を基盤層として形成されていた。ただし、当層は締まりの弱いシルト層で、調査区南西端部にて当層の下位に潜る灰白色(10YR6/1)砂礫層が確認されることから、河川の上位に堆積した不安定なシルト層に遺構が形成されたと見なされる。

検出された遺構は北東から土坑1基(写真73)、ピット1基(写真74)、溝1条(上部幅1.8m)で、土坑とピットの埋土は黄灰色(2.5Y4/1)で同質、溝の埋土は灰黄褐色(10YR6/2)砂礫で浅黄色(5Y7/3)シルトがブロック状に含まれていることから、小河川の可能性がある。なお、土坑からは須恵器壺体部小片が出土している。

以上の調査成果から、経済学部校舎西側では現地表下約1mに、軟弱地盤上に遺構が埋存していることが明らかとなった。周辺域での今後の工事計画立案においては注意を促しておきたい。

なお、当調査地点の北方14m地点においても、雨水管の新規掘削が予定されていたが、掘削深度が56cm～72cmと浅く、当調査成果から埋蔵文化財に支障が生じる可能性は低いと判断されたため、調査対象から省くことにした。

【註】

- 1) 河村吉行(1987)「山口大学吉田構内遺跡保存地区の発掘調査(昭和57年度)」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅴ』, 山口
河村吉行(1988)「山口大学吉田構内遺跡保存地区の発掘調査(昭和59年度)」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅵ』, 山口
河村吉行(1990)「山口大学吉田構内遺跡保存地区の発掘調査(昭和60・61年度)」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅷ』, 山口

9. 附属農場フィルムハウス設置に伴う地ならし工事及び基礎等掘削工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内R・S-10区

調査面積 18.5m²

調査期間 令和4年2月15・21日、3月2日

調査担当 横山成己

調査結果

農学部により附属農場放牧地南端部にフィルムハウスを新設する計画が立案された(図25)。予定地の西方では、平成8年度に排水管布設のため、翌9年度に堆肥舎新営のため試掘調査^{註1}が実施されており、前者では古墳時代から中世にかけての土器類を含む遺物包含層とピット群が検出され、後者では顕著な埋蔵文化財は確認されなかった。放牧地という性格上、将来的に掘削を伴う工事計画の立案が見込まれないこともあり、当工事計画地周辺でのより詳細な遺構・遺物の分布を確認する必要があると判断されたことから、掘削時に立会調査を実施することが第3回埋蔵文化財資料館専門委員会(12月3日(月)～メール審議)にて諮られ、承認された。

フィルムハウス基礎は18箇所設けられ(A地点)、深度75cmで掘削が行われたが、造成土内に止まった(図26、写真75)。電柱設置のため150cm掘削されたB地点も造成土内に止まっている(写真76)

【註】

1) 田畑直彦(2004)「吉田構内農学部附属農場排水管布設に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』, 山口

田畑直彦(2004)「農学部附属農場堆肥舎新営に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』, 山口

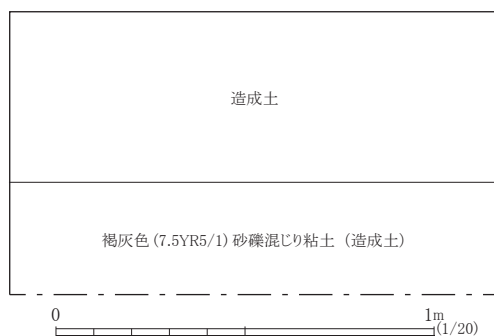


図 26 A地点土層断面柱状図

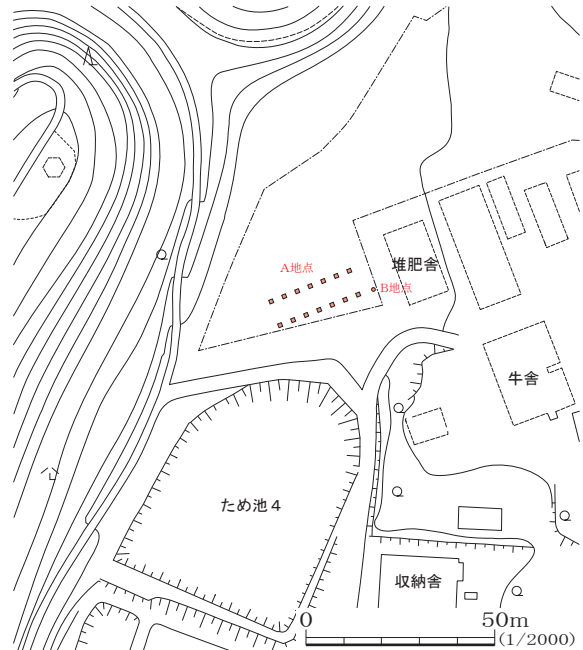


図 25 調査区位置図



写真 75 A地点土層断面(東から)



写真 76 B地点土層断面(北から)

10. 特別支援学校校舎改修工事に伴う立会調査

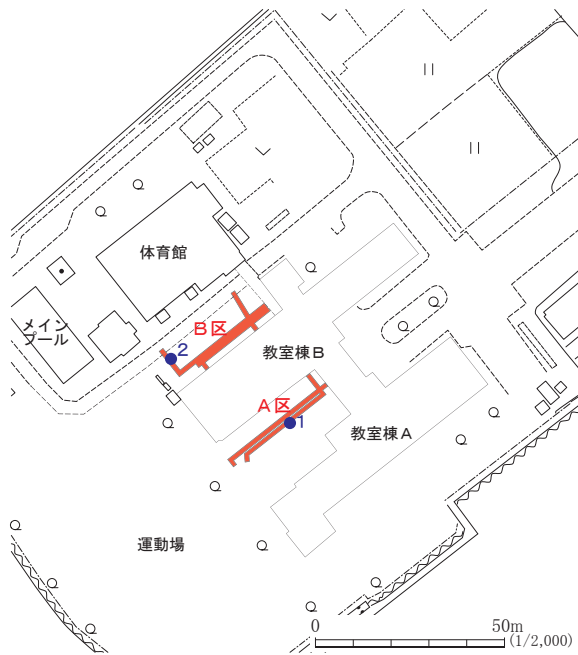


図27 調査区位置図

調査地区 吉田構内B-21・22区、C-21・22区

調査面積 約98.09㎡

調査期間 令和4年2月15・22日

調査担当 水久保祥子

調査結果

特別支援学校校舎改修工事伴って屋外配管等の更新工事が計画された。令和2年度第5回埋蔵文化財資料館専門委員会(令和3年3月31日(水)開催)において、埋蔵文化財保護対応についての審議の結果、工事立会として対応することが決定した。工事計画は令和3年から令和4年にかけて立てられており、今回報告するものは全体の工事計画のうち令和3年度中に着手したものである。調査は工事の着手に合わせて順次行い、調査の便宜上、着手順に調査区名を付与した(図27)。

掘削は、A・B区ともに既設管路と重複しており、工事による埋蔵文化財への影響は認められなかった。A区では現地表下38～65cmまでが造成土で、その下に灰色細砂～極粗砂を確認した(図28、写真79)。B区でも現地表下55～60cmの灰色中砂～粗砂を検出した(図28、写真81)。A・B区とも遺物は出土していない。

特別支援学校では、プール新営に伴う立会調査で現地表下70cmで黒灰色粘土層、その下に現地表下110～130cmで青灰色粘土層の地山が確認されている^{註1}。なお、黒灰色粘土層は教室棟Aより以南でも認められており、今回の工事掘削ではそこまで至っていないが黒灰色粘土層が残存している可能性は十分にある。以後の調査も慎重に行う必要がある。

【註】

- 1) 河村吉行(1985)「教育学部附属養護学校プール新営に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅱ』, 山口



写真77 A区調査地近景(南西から)



写真78 A区調査地近景(北東から)



写真79 A区第1地点土層断面

A区第1地点土層断面

1
2
3
4

- 1 表土
- 2 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 中砂 …真砂
- 3 灰色 (10YR5/1) シルト
(1 ~ 20cm φ の礫多く含む) …盛土
- 4 灰白色 (7.5Y7/1) 細砂～極粗砂



写真80 B区調査地近景(北東から)

B区第2地点土層断面

1
2
3
4

- 1 表土
- 2 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 中砂 …真砂
- 3 灰色 (10YR5/1) シルト
(1 ~ 10cm φ の礫多く含む) …盛土
- 4 灰色 (10Y6/1) 中砂～粗砂

0 50cm
(1/20)

図28 A・B区土層断面柱状図



写真81 B区第2地点土層断面

11. 馬術部倉庫裏周辺排水改善対策工事に伴う立会調査



図 29 調査区位置図

調査地区 吉田構内M-7区

調査面積 20m²

調査期間 令和4年3月2日

調査担当 横山成己

調査結果

令和3年度後半、学生支援部と共同獣医学部の連名で、吉田構内北端部に位置する体育会馬術部厩舎北東側に排水溝を新設する工事計画が立案された(図29)。馬場と南西に設けられている厩舎とは約2mの高低差があり、降雨時に馬場法面を通じて厩舎周囲に雨水が溜まることが原因であった。

構内北端部にある馬術部および自動車部敷地は、姫山から南西に派生する丘陵谷筋の一つに設けられており、谷筋南東丘陵の北西斜面の立会調査^{註1}以外にさしたる調査歴もないことから、小規模な掘削でも地下の様相を確認する必要があると判断されたため、掘削時に立会調査を実施することが第3回埋蔵文化財資料館専門委員会(12月3日(月)～メール審議)にて諮られ、承認された。

馬場南西法面については、除草後にバックホーバケットおよびランマープレートにより転圧がかけられたことから、土層断面は観察できなかった。周辺地形からみて馬場南西部は盛土による嵩上げが行われている可能性が高い。排水溝底面は現地表下25cmの掘削が行われたが、盛土内に止まった(図30、写真82)。

当谷筋の北西丘陵部南東斜面には、7基からなる日吉神社横穴墓群のうち6基が分布している。谷筋については、本学により構内造成時に大規模な土地改変が施されたと思われるが、遺構が分布している、または遺物が流入している可能性を残している。当地周辺における工事計画には引き続き慎重な対応が必要である。

【註】

- 1) 横山成己(2013)「アーチェリー場整備工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館—平成21年度—』, 山口



写真 82 北東壁土層断面(北西から)

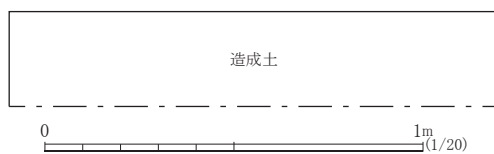


図 30 土層断面柱状図